

決算説明会 質疑応答(要旨)

(2020年度第2四半期)

Q1. 2020年8月に公表された業績予想に対して、第2四半期はどの程度好転したか。

A1. 社内計画と比べ、受注・売上は同レベルでしたが、営業利益は50億円程度好転しました。

主な要因は、精密機械セグメント内、精密その他事業に含まれている、住友重機械イオンテクノロジー(株)(SMIT・半導体製造装置の製造販売)の業績が好調だったことによります。

その他、固定費削減により数億円程度改善しました。

Q2. 通期の業績予想における、営業利益の上方修正要因は。

A2. 上期においてSMITの業績が好転したことと、油圧ショベル事業の国内市場で上積みができると想定しています。

Q3. 通期予想から上期の実績を引き算すると、下期はかなり低調となる見通しだが、展望は。

A3. 上期と下期で大きく変動するのは精密機械セグメントになります。プラスチック機械事業は大きな変化は想定していませんが、精密その他において、極低温冷凍機事業で米中貿易摩擦の影響から受注環境が厳しくなる見通しです。

また、産業機械セグメント内、運搬機械事業において上期は高採算案件がありましたが、下期は通常レベルになると想定しています。

Q4. 海外子会社の7-9月期の状況は。

A4. 当社の海外子会社はほとんどが12月決算のため、海外における7-9月の実績は、第3四半期決算に反映されます。各事業での海外子会社の7-9月の売上は、機械コンポーネント事業で前年同期比10%減、プラスチック機械事業では前年同期比同等、油圧ショベル事業では同15%減少となっています。

以上